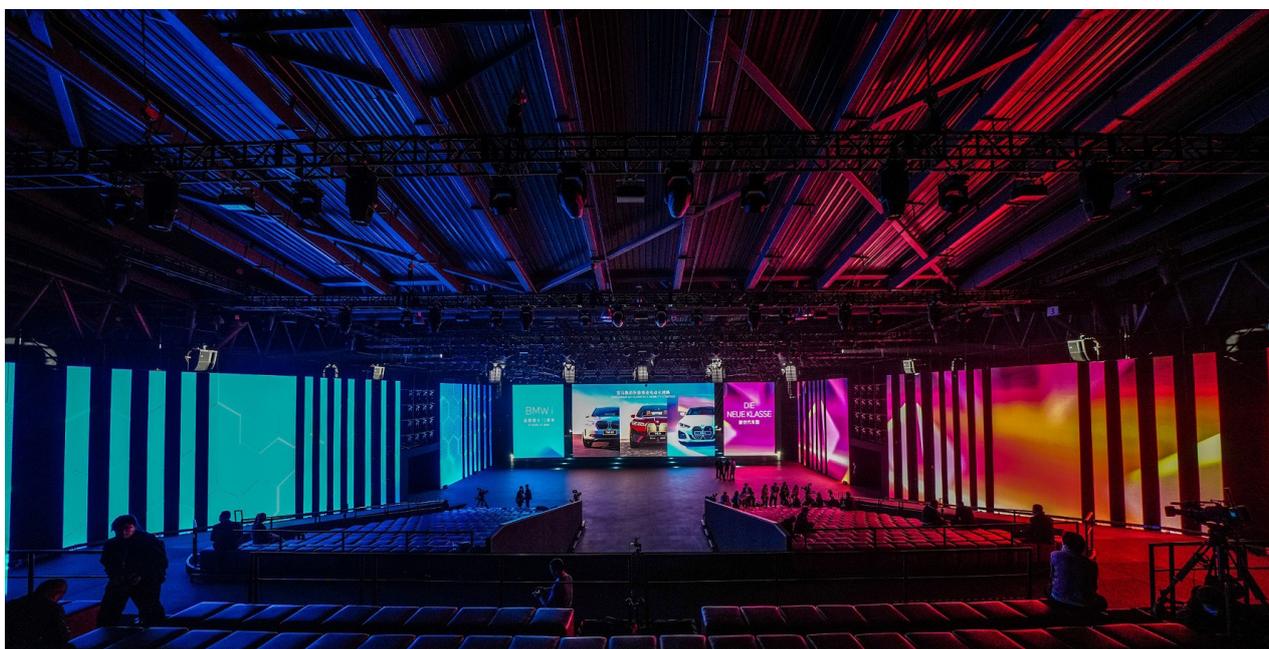




中国でのBMW iX EV(電気自動車) SUV 発表会にL-ISAのイマーシブ・ハイパーリアル・サウンドが登場



ジン・シャオガンとHangzhou Das Wumei Technology Co.は、L-ISAとBlackTraxを組み合わせ、リアルタイムのイマーシブ・サウンドを実現

2021年7月

上海万博展示コンベンションセンターで開催された中国初のBMW Group Nightでは、ドイツの大手自動車メーカーが電気自動車SUVの最新モデルである「BMW iX」を発表しました。BMWオーナーや自動車販売会社の役員、メディアに囲まれたこのイベントは、電気自動車の革新を目指すBMWのサブブランドであるBMW iシリーズの10周年を記念して行われました。iXは、BMWの電気自動車ラインナップの頂点に位置し、高級ブランドの最新技術を披露しています。

BMWのラインナップの中で最も技術的に進んだモデルに合わせて、BMWはこのイベントに最先端の技術を求めました。三方をLEDスクリーンに囲まれた奥行き120メートルのステージに、イベントのビジュアルを華やかに演出しました。さらにBMWは、アカデミー賞受賞者のハンス・ジマー氏を招き、iXのデビューに合わせてエレクトロニックのサウンドトラックを制作しました。



さらに観客をショーに引き込むために、プロデューサーのBeijing Junwei Renhe Event Management Co.は、中国のトップサウンドエンジニアの一人であるジン・シャオガン (Jin Shaogang) 氏に、イベントのための360°サウンドシステムの設計を依頼しました。『Sing! China 2019』でL-ISAのイマーシブ・サウンド・テクノロジーを使用した経験から、ジン氏は、この技術が観客の視覚と聴覚を刺激するのに最適な方法であることを知っていました。ジン氏は、杭州のDas Wumei Technology Co., Ltd.が提供するL-ISA構成を指定しました。たくさんのL-Acousticsを所有し、十分なトレーニングを受けたエンジニアを擁する同社は、この新製品発表イベントにとって理想的なサウンドエンジニアリングパートナーでした。



L-ISAのイマーシブサウンドの構成は、8台のL-Acoustics Karalによる5つのハングがステージエリアに配置され、2台のL-Acoustics A10（FocusとWideを各1台ずつ）による9つのアレイで客席の側面と背面を囲みました。また、片側6台のKS28サブウーハーが低域を提供し、8台のX15HiQをステージ・モニターとして使用しました。24台のLA12Xアンプリファイド・コントローラがシステム全体を駆動しました。

巨大なステージに、BMW iXのが電気的な震動音を鳴らしても、インパクトはほとんどありません。パワフルなiXを観客に味わってもらうために、ジン氏はL-Acoustics Asia Pacificのアプリケーション・プロジェクト・ディレクターであるアルヴィン・コー（Alvin Koh）の協力を得て、BMW iXの電気エンジンとその動きを360° サラウンドレコーディングでキャプチャーしました。ライブショーでは、ステージ上のiXにBlackTrax赤外線センサーを搭載し、リアルタイムにトラッキングを行いました。車のエンジン音のレコーディングは、舞台上の車とL-ISAコントローラーにシームレスに統合されたBlackTraxの動きでトリガーされていました。プレゼンターのスピーチとワールドクラスのサウンドトラックがライブミックスされると、魅力的で爽快な感覚が観客に大きな刺激を与え、最もインパクトのある瞬間には立ち上がって拍手をする人もいました。また、BMWグループ中国の担当者は、「今まで経験した中で最高の新製品発表イベントだった」と喜びを語りました。

「L-ISAのImmersive Hyperreal Soundの自然で鮮明な体験は、ショーをさらなる高みへと導きました」とL-Acousticsのコーは説明します。ジン氏の鋭い技術的ビジョンと、このショーに関わった様々なパートナーとのコラボレーションのおかげで、BMWと観客のために聴覚と視覚を二重に感じられる見事なショーを提供できたことを誇りに思います」と締めくくりました。

